

～～第7757回～～

大日岳～奥大日岳

～H27. 9. 21～23

新静岡セノバ横やっぺい前に5:00集合。シルバーウィーク真っ只中であり、高速道路はどれほど渋滞するのか、マイクロバスは目的地に何時に到着できるのだろうか心配したが、連休の中日であったことによるものなのか新東名から東海北陸道も意外と順調に進み、立山ICを降り称名滝の駐車場へは昼前の11:20に到着した。ところが乗用車のスペースは満車状態。幸いにもバス置場のほうは空いていたため助かったが、マイカー分乗で来ていたら出だしから厄介な事態だったかもしれない。ここから称名滝はわずか30分ほど歩いた先にあるが、立ち寄るのは最終日として我々は滝の手前から始まる大日岳登山道入口から登り始める。やや急登の道がしばらく続くが、高度がぐんぐん上がっていくのは気持ちが良い。登り始めて1時間ほどで階段の踊り場のような猿ガ馬場に着く。さらに30分ほど急坂を登り牛首までくると、登山道は東方向に右折れし、やせ尾根へと変わっていく。右側は称名廊下で深く切れ込んでいるが、灌木が多く安心感はある。しかし慎重さは必要だ。やがて道は木道となり、大日平と呼ばれる台地状の地形に入ってきた。ここまでくれば、山荘までさほどの高低差はない。道の左右はすでに紅葉が始まっている。ナナカマドの赤やダケカンバの黄が鮮やかだが、残念なことにガスで山はよく見えない。気温が下がり寒さを感じ始めた頃、本日の宿泊先である大日平山荘に到着する。山荘の入口に「本日満員のため予約のない方は宿泊できません」という趣旨の張り紙があった。しかし我々は予約済であったためあてがわれた敷布団は一人一枚。快適である。人数制限はスタッフが少ないせいなのかもしれない。さらに嬉しいことには、風呂があったことだ。体を洗うことはできないが、冷え切った体を温めるだけでも十分すぎる設備。夕食後、明日の行程を考え早めに就寝する。二日目は山荘で朝食をとり、山荘のすぐそば、不動滝のパノラマを眺めてから6:30に出発する。池塘も見える木道をしばらく北方向に歩き、再び急登が始まる。途中、登山道補修作業の方たちに出会ったが、安全登山のため重い器材を運んでの仕事、頭が下がる思いである。視界が開けた場所からは弥陀ヶ原、そしてその向こうの薬師岳が良く眺望できる。ここほど標高があつてなおも平らな地形が広がっている光景は、日本屈指のものであろう。ローソク岩と呼ばれる奇岩を左手に見ながら、稜線上にある大日小屋には登山口から3時間弱ほどで到着する。今日は雲一つない良好な天気のため、期待にたがわず稜線からは劔岳の迫力ある勇壮な姿をたつぷりと見ることができた。ここでザックをデポし、往復30分で大日岳のピークを踏む。小屋まで戻り中大日岳を目指して稜線を歩き始めるが、30分はかからない。岩が点在する庭園の如き風情のある七福園を過ぎ鞍部まで下るが、そのあとの奥大日岳までの登りは、蓄積疲労と相まってハシゴもあつたりと少々きつめだ。12:25、標高2,605メートルの奥大日岳に到着する。劔岳だけでなく立山方面もくっきりと見える。最高点はやや東にあるが、廃道らしく道はここを巻いている。ここまでくればあとは下るだけと思いたいところではある。ところが劔御前方面との分岐、新室堂乗越から行き先である南方面の室堂平を見やると、まさに地形図のとおり雷鳥平まで

ぐっと下がってから結構登り返しがあることが確認できた。少々萎え気味になってしまう光景だが、下りきった浄土沢の橋のたもとで休憩し、最後のひと踏ん張り。階段をひたすら登り、二日目の宿となるみくりが池温泉の手前までくると、噴出する火山性ガスの影響で喉が痛い。タオルを口にあてがい、16:00 ようやくという言葉がふさわしい思いで宿に到着する。温泉で汗をきれいさっぱり落とし、山小屋とは違った豪華な夕食を満喫してから寝床に入る。三日目は行程に余裕がある。宿を7:00に出発し、15分ほど歩いて室堂バスターミナルに着く。ここで立山高原バスに乗り、停留所の弘法まで向かう。弥陀ヶ原の紅葉もなかなか見事である。バスを降りて木道から歩き始めるが、すぐさま八郎坂と呼ばれる急な下りとなる。ぬかるんだ狭い登山道は切れ落ちている箇所が多く、緊張感を持って歩く必要がある。途中、自分はあまり目にしたことがない花、花びらの縁がひげ状に裂けた白髭草が咲いていた。やがて木々の間から瀑布の音とともに称名滝が見え隠れするようになってきたが、慎重に歩いたせいもあり、下りきって滝の展望台まで到着するのに2時間30分を要した。落差日本一の名瀑はやはり迫力がある。涼感を味わってから駐車場に戻る。帰路は往きと同じコースだったが、初日と同様、渋滞もなくスムーズに静岡まで走ることができた。

参加者：15名（静岡北6、静岡西6、静岡東1、藤枝1、磐田1）

天候：①曇り②晴れ③晴れ

地図：立山

コースタイム 静岡500＝立山 I C 1020＝称名 P 1120…大日岳登山口 1150…猿ガ馬場 1245…牛首 1315…大日平山荘 1430-630…大日小屋 910…大日岳 930…中大日岳 1015…奥大日岳 1225…雷鳥平 1500…みくりが池温泉 1600-700…室堂ターミナル 715-30＝弘法 800…称名滝 1025…称名 P 1100＝静岡 1730

記録：静岡北 中尾



雷鳥沢キャンプ場内を立山バスターミナルに向かう



奥大日岳から剣岳をバックに室堂に向かう